

平成 30 年度 第 1 回練馬区立美術館再整備基本構想策定検討委員会 会議要約

◆開催日時

平成 30 年 5 月 29 日（火）午後 3 時～午後 5 時

◆開催場所

練馬区立貫井図書館視聴覚室（美術館 1 階）

◆出席者

1 委員

秋元雄史委員長、大谷康子委員、高橋幸次委員、福井直昭委員、江村健二委員、
島田紘一呂委員、関口登美雄委員、江川誠志委員、今田裕子委員、須藤麻世委員、
前田尚子委員、
小金井靖（地域文化部長、副委員長）、矢尾板克之（施設整備課長）、
近野建一（経済課長）、小沼寛幸（文化・生涯学習課長）、原田昭二（道路公園課長）、
桑原修（光が丘図書館長）

2 事務局

文化・生涯学習課施設計画担当係 山西、渡邊

◆ 会議意見要約

【委員長】

- ・今年来年の 2 年間で基本的な構想を整理する。
- ・施設の老朽化対策も含めて展示室や収蔵庫などのスペースの拡張を検討する。
- ・今後、他の施設とのすり合わせもして行かなくてはならないが、この委員会では美術館を中心に検討する。
- ・まずは初回と言うこともあり、夢も含めて自由な発想で意見を出していただきたい。

【委員】

- ・これまでの会議(魅力向上検討会)では、階段上のスペースに陸屋根を設置する案が出ていたので、前の緑地から素通しでエレベーターやレストランが見えるような建物と緑地を融合させていくイメージを持っている。
- ・外の吹き抜けのスペースが勿体ない。床を増設することで、保育スペースやイベントスペースなどにも活用したい。

【委員】

- ・練馬区立美術館の展示品は充実していると思う。ただ、とにかく動線がわかりづらく鑑賞後にゆっくり立ち寄れる場所がない。

- ・展示以外のものとのコラボレーション企画等も取り入れられる空間もあると良い。
- ・車いす用駐車スペースからのアプローチなどの安全面についても課題がある。

【委員】

- ・単なる展覧会を楽しむだけの施設ではなく、高齢者の居場所の確保や、子どもたちが自然に美術に親しめるような空間整備が必要である。
- ・オブジェや緩やかなスロープアプローチの設置など、建築面からも練馬区立美術館として象徴となるようなものがあると良い。

【委員】

- ・エレベーターでの動線が不便。使用する時には監視員などに頼まないと使用できない（管理上、停止階を制限している）ため改善させたい。
- ・施設全体が薄暗い。近年にできた美術館のように明るいイメージにしたい。
- ・サンライフのレストランとのアクセスが良くない。
- ・現在、美術館サポーターの活動は安定しているが、新規区民が参加しやすい環境を整備したい。

【委員】

- ・小さな子や子連れ世代は静かな空間に対応できない人もいる。
- ・大人が芸術を議論する場所も必要。建物内にオシャレなカフェがあり、美術を楽しみながら豊かな時間を過ごせる空間にしたい。

【委員】

- ・美術館前の緑地が整備され地方から来た人も含め全体的に賑わって来ている。現在、美術館の喫茶スペースが稼働していないので、サンライフのレストランにカフェを連携させて美術館から直接行き来できるようにしたい。
- ・吹き抜けなどの空間を有効活用できないか。増築については建築基準法上どの程度まで可能なのか。

【施設整備課長】

- ・増築する場合としない場合、それぞれにおいての制限はある。具体的な方向性が出てくれば、それに応じて増築可能面積などを精査することになる。
- ・外の吹き抜けについては、下の階の環境との関係性があるので検討となる。

【委員】

- ・展示スペース以外の付随的な設備、例えばトイレのデザインなども、それだけで話題になるアートなものにするのも面白い。

【委員】

- ・美術館で行う生徒の作品展では、生徒やそのご家族など、広い世代で賑わっている。外から中の様子が伺えるようなガラス張りのイベントスペースの設置、喫茶コーナーや受付周りの充実など、一時的な賑わいに留まらず、一年を通して広い世代が楽しめるような工夫ができれば良い。

【委員】

- ・大学の改修改築にあたり、一部を除き、ほぼ全面をリニューアルしたので、外観を含めていろいろなことができた。ただ、(一部残した)既存部分と新しくする部分との接続部や並びなど、バランスを取るのに難しい部分もあった。
- ・サンライフ一体案とあるが、増築を含む既存の建物同士の一体的な改修と言うのは外観デザインの理想を求めていくと、そう簡単にはいかない難しさがある。
- ・展示室を無駄に広くするのではなく、どの程度の展示スペースが必要なのかを構想段階で考え、それに必要なデザインや快適な機能を入れていくべきである。

【委員】

- ・バックヤードの規模や動線など、これまで限られた条件の中で良くやって来たと思う。作品を受け入れ、運び、そして確実に保存していかななくてはならない。そういった一般の来館者が目にしない部分の整備も重要である。

【委員長】

- ・古い建物がゆえに全体的にユニバーサルデザインを含めたアプローチやアクセスの悪さが意見として多かった。そこも改修で見直していく大きなポイントとなる。
- ・美術を楽しむことを中心にしながらも、ほかの時間も豊かに過ごせる空間の工夫が必要である。
- ・現状では、常設スペースやレクチャールームなどが無い。受付周辺の人の滞留を防ぐためショップの切り分けなども検討したい。
- ・展示スペースの拡張については、今後の企画方針も考えながら検討していくことになる。

以上